

## アメリカの天文台を訪ねて



東京天文台の富田弘一郎氏は、昨年10月30日より12月15日まで、スミソニアン天体物理観測所の、ペーカー・ナン・シュミット・カメラのステーション・チーフ会議に、広瀬台長の代理として出席され、ついでにアメリカ各地の天文台を見学された。以下は富田氏の撮影された写真である。

### ① スミソニアン天体物理天文台本館

マサチューセッツ州ケンブリッジのハーバード大学天文台に同居している。ここは研究室が主で、別の5哩ほど離れたところで人工衛星のデーターを処理している。

### ② スミソニアン・オーガンパス観測所

ペーカーナンシュミットカメラを備えたこの観測所はニューメキシコ州のラスクルーセスからアラマゴールドに行く途中のオーガン山を越す峠にある。従来人工衛星追跡観測所といていたが、最近天体物理観測所と改名した。ペーカーナンを純天文学的観測研究にも大いに利用しようという現われでもある。



### ③ スミソニアン・マウイ観測所

ハワイのマウイ島ハレヤカラ山頂にあるこの観測所は12カ所のスミソニアン観測所の中でも一番設備がととのっている。後方は建設工事中のミシガン大学天文台、1.5m 反射望遠鏡と1.2m 二連望遠鏡が今年の夏までに完成する筈。

### ④・⑤ ワロツプス島の人工流星計画

ワロツプス島はアメリカ NASA (航空宇宙局) のロケット発射基地で、スミソニアンヤリントン研究所などが共同で人工流星の実験もやっている。6段式のロケットを使用し最初の3段で200km位まで上昇し残りの3段で下向きに金属片を発射して秒速11~15kmを出して人工流星を作るものである。

④は光学追跡用の有名なスーパーシュミットカメラで3台を約30km離れた場所で使用して人工流星の三角測量を行なう。

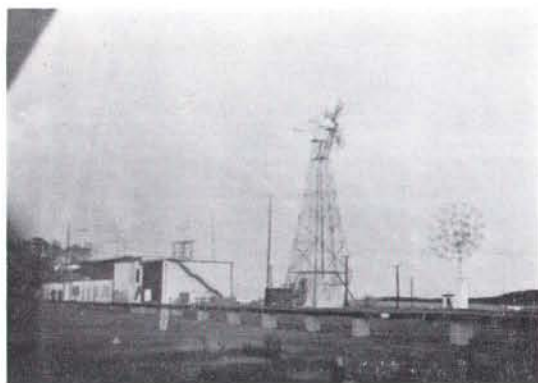
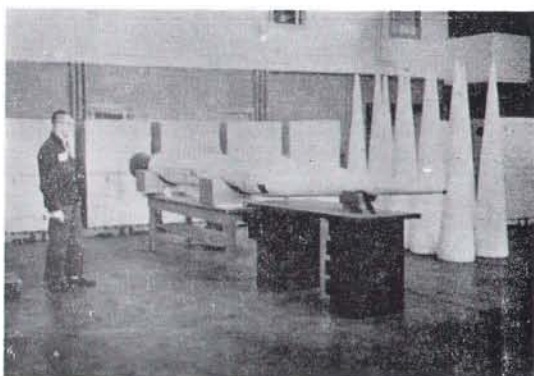




⑤は同時に電波観測も行なっていて、レーダー電波送信機を備えたレンジリカバラーという軍艦である。左側のアンテナが送信用で、ロケット打上げ期には、大西洋上に出て行って電波を発信する。受信装置は陸上5カ所にあり、光学観測データーと組合せて流星発光機構をしらべるのが目的である。

⑥ ワロップス島のサウンディングロケット

ここはスカウトを使用した人工衛星も打上げているが、主な目的は各種科学観測用のサウンディングロケットの発射場である。ナイキアバッチとそのノーズコーン。



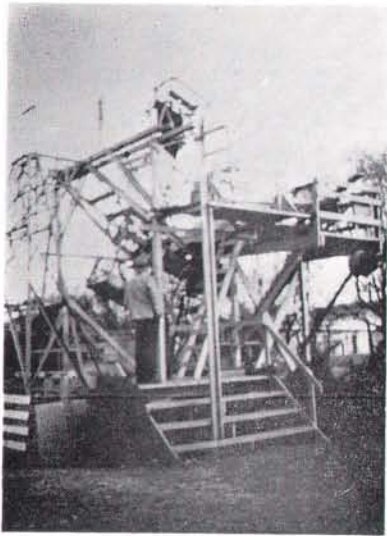
⑦ ワロップス島のニンバス（気象衛星）用受信アンテナ群

タイロスやニンバスの受信を行なっている各種のアンテナ。

⑧ ノースウエスタン大学オーガン観測所

②のすぐ隣りにあり 12 吋反射望遠鏡にイメージオルシコンをつけて新しい天文観測技術の開発研究を行なっている。15 等星がブラウン管上に容易に認められた。





⑩⑨ トンポー博士と自作の望遠鏡

冥王星発見で有名な C. トンポーは現在ニューメキシコ大学天文学科の主任教授であるが自宅の庭に自作（主鏡・マウンティング共）の 16 吋反射望遠鏡をもって惑星観測を行なっている。



⑪ エール大学ベッサニー観測所の極望遠鏡

有名な極望遠鏡で上部の部屋に対物レンがあり下部に取枠部分がある。この階段の下が鏡筒になっている。

⑫ エール星表用天体写真儀

有名なエールのスターカタログを作った天体写真儀。ここの観測所では 1m 反射鏡を計画中で、ドームの基礎工事を行っていた。

（以上、富田弘一郎氏撮影）

